

## Contents

- 02 目次  
プロローグ Vol. 26
- 04 **特集 中東のいま  
「アラブの春」から10年**
  - 04 JICA若手職員が聞く  
池上さん、「アラブの春」について教えてください!
  - 10 データで見る各国
  - 12 民主化移行を果たしたチュニジア チュニジア
  - 16 「アラブの春」の影響が続く国々で  
トルコ/地域の取り組み/レバノン/ヨルダン  
イエメン/リビア
  - 20 2020年の中東地域で  
エジプト/ヨルダン/イラク/モロッコ
  - 22 私が見た中東のいま  
チュニジア/レバノン/アルジェリア/ヨルダン/エジプト
- 24 **JICA海外協力隊がゆく Vol. 25**  
チュニジア
- 26 **世界につながる教室<sup>13</sup>**  
世界に目を向ける手法を知る
- 28 **地球ギャラリー Vol.147 ウガンダ共和国**  
写真・文●木下貴史(フォトグラファー)  
**魅力的な挑戦 MURAKOSHI**
- 34 **教えて! 外務省**  
知っておきたい国際協力<sup>27</sup>
- 36 JICAイベントカレンダー
- 38 読者の声、プレゼントほか
- 39 JICA PRESS
- 40 **わたしが見つけたSDGs Vol.27**

\*掲載されている情報等は取材当時のものです。



「アラブの春」から今年で10年。民主  
化運動の変動をふり返るとともに、各  
国でのJICAの取り組みを辿る。



信頼で世界をつなぐ  
Leading the world with trust

## プロローグ Vol.26

# 同じ世界を生きる 近しい人たち

文・サラーム海上

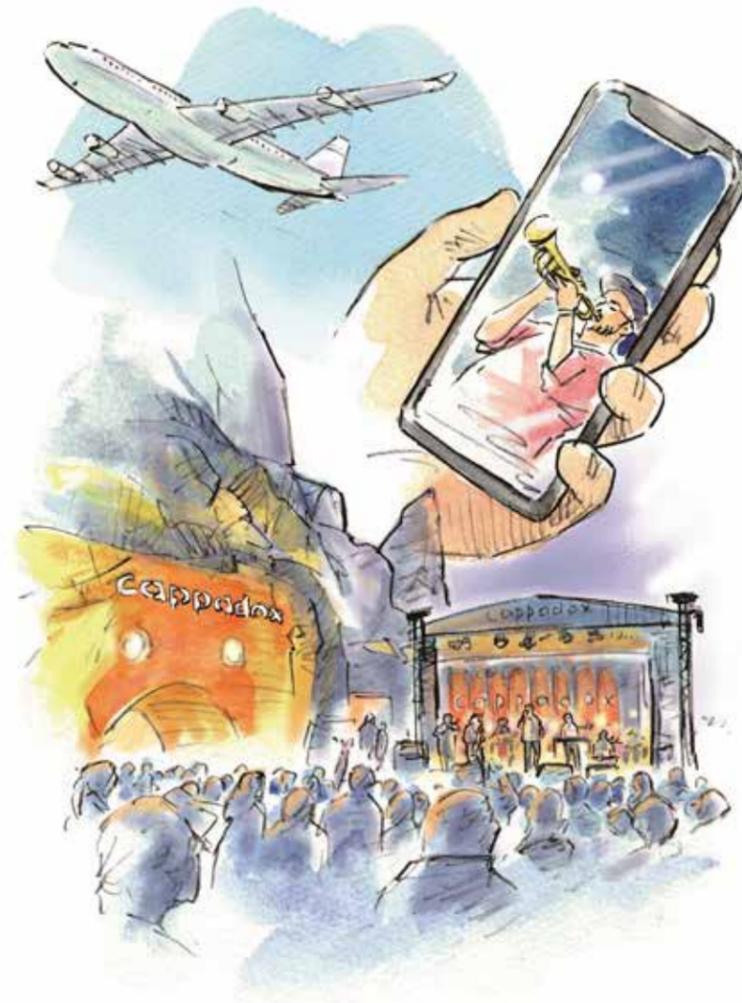
伝統音楽への興味が高じて中東や北アフリカに通うようになり、30年以上経つ。

モロッコでは50万人以上が集まるアフリカ系音楽ゲナワのフェスティバルから、古都フェズで開催される国際的な世界宗教音楽祭、さらにはひなびた山村での伝統音楽フェスティバルまで訪れた。観光が主要産業の国だけに、近年では国内いたるところで村おこしのなフェスティバルが春から秋にかけて毎週末のように開催され、ハシゴして回ることも可能だ。トルコのイスタンブールは2500年以上にわたり世界の人々が往来した国際都市で、人口は1500万人を超える。夜の町に一步足を踏み入れれば、民謡や古典音楽、ペリダーンス、ジャズやクラシック、ヒップホップやロックの生演奏に簡単にアクセスできる。僕はインディーズ音楽シーンで活躍する音楽家たちに共感し、長く取材を続けてきた。

イスラエルでは外務省と音楽NGOが主催するイスラエル音楽の国際見本市を何度も訪れた。小さな国だけに、音楽家たちはアメリカやヨーロッパでの成功を夢見る。音楽学校を出た若き精鋭たちは欧米や日本のジャズクラブで修業を重ね、それぞれの複雑な民族的ルーツなどに立ち返り、ユダヤの音楽要素を加えたイスラエルならではのジャズを演奏している。取材を続けるうち、僕の興味は料理にまで広がった。トルコでは音楽家の奥さまやお母さまたちに家庭料理を習い、各地の人気レストランのシェフたちを取材した。イスラエルでは東ヨーロッパ系、ウズベク系、モロッコ系など異なる背景を持つ友人の実家を訪ね、それぞれ異なるユダヤ料理の作り方を学んだ。

取材の成果は、音楽についてはNHK FMやJ-WAVEのラジオ番組などで日本に紹介してきた。料理に関してはレシピ本や紀行本を出版し、気がつく料理教室で講師まで始めていた。

一方で、中東の友人たちも次々と訪日し始めた。イスラエ



イラスト●中村知史

ルのジャズメンたちは自国政府の助成金を活用し、日本でツアーを行っている。日本料理に興味を抱くシェフたちも多く、今年の2月上旬までは、毎月のように来日する彼らを東京・西荻窪の居酒屋や神奈川県箱根の温泉旅館などに連れて行くのが僕のルーティンとなっていた。

コロナ禍はこうした活発な国際交流を完全に遮断してしまったかのように見える。音楽も料理も、ともにコロナの影響を大きく受けた産業だ。しかし、コロナの影響によって急増したオンラインアクティビティに親しむことで、彼らとの距離は遠ざからずにすんだ。SNSには都会の「密」を避け、地中海にある実家に居候し、11月になっても海水浴を楽しむ友人たちのセルフィーが毎日のように上がってくる。僕の周りではiPhone 12を最初に手に入れたのはイスタンブールのウェブメディア編集者だった。9月から激しい戦闘が続いたナゴルノカラバフに暮らすアルメニアの友人たちも音楽演奏動画を毎日投稿し続けている。

コロナ禍を経て、世界はますます急速に均一化に向かっていくと感じる。そこには良い面も悪い面もあるが、日本も中東も、僕たちも彼らも、同じ2020年を、同じ世界を生きている。コロナ禍が収束し、東京やテルアビブやイスタンブールにふたたび外国人旅行者が戻ってきたら、そのことはもつとはつきりするだろう。今では中東と日本は直行便に乗れば半日で行き来できる。物理的にも精神的にも、かつてのように遠い、遠い場所ではない。

\*中世以降に西アフリカから奴隷として北アフリカに連行された黒人系部族の名前であり、彼らが行う宗教音楽儀礼も指す。

サラーム海上(サラーム・うながみ)  
音楽評論家、DJ、中東料理研究家。中東やインドを定期的に旅しながら、現地の音楽や料理シーンの調査を続ける。NHK FMの音楽番組「音楽遊覧飛行」やJ-WAVEの中東音楽専門番組「Oriental Music Show」においてナビゲート役を務めるほか、近著に中東料理のレシピブック「MEYHANE TABLE More! 人がつながる中東料理」(LD&K)などがある。コミュニケーション言語は英語、フランス語、ヒンディー語、日本語。群馬県高崎市出身、明治大学政経学部卒業。